

1学年だより

夢の宅配便

1年学年主任
水野 喜代治

水野 塾！

NO21

私は、毎週土曜日に補習をしています。この補習は、今年から始めたわけではなく、私の教育実習の時から始めたので、もう40年以上続けています。最近では、この補習は「水野塾」と呼ばれるようになりました。補習を始めたきっかけは、私が教員免許状をとるために市内の中学校に教育実習にいったときでした。40年前の学校現場は、今のように落ちついた雰囲気ではなく、非常に荒れたものでした。生徒が吸ったタバコが廊下や教室に落ちていたり、ツッパリと言われた生徒たちが大声を出して授業を妨害したり、校舎の壁にスプレーで落書きをしたり、先生が指導に従わない生徒を大声で怒鳴ったり、怒鳴られた生徒が先生に暴力を振るったり、こんな光景が日常的に校舎内でみられました。このような教育現場をマスコミは「校内暴力」と呼んでいました。私が中学校に教育実習に行ったのは、ちょうど「校内暴力」が吹き荒れていた時でした。実習の初日に、遅刻した生徒が先輩のバイクに乗って登校して校庭をグルグル回って大騒ぎになりました。多くの先生たちは、暴走する生徒に投げかける言葉が見つからず傍観するしかないような状況でした。……

私は、大学に進学したものの大学で学ぶ意欲がなくなって、大学に通わずにバイトをしたり、遊んだりして、目的も持てずに墮落した生活をしていました。大学を退学しようかなと思っていたときに、プールの監視員のバイトを依頼されました。小学校のプールの監視員をする人がいなくて困っているということでした。悪友と監視員なら楽だし、自分たちも泳いでいけばいいのだからやろうかということになって、引き受けました。いい加減な気持ちですから、プールサイドでタバコを吸って悪友としゃべっていました。時間が来たら鐘を鳴らして小学生をプールから出せばいいのです。楽なバイトでした。バイトを始めて、しばらくすると、プールサイドで泳がないで足だけプールに入れてつまらなそうな女の子がいました。「どうしたの、泳がないの？」と私が聞くと「泳げないの、だからつまらない！」と水泳帽に手を当てて隠しました。泳いでいる子どもたちの水泳帽には線が入っていました。級によって線の数が違うようでした。女の子の水泳帽には線が入っていませんでした。「そうか、泳ぐのは簡単だよ！お兄さんが教えてあげるよ！直ぐに泳げるようになるから」とその子をプールに入れて、水かけっこや追いかけてっこをして遊びました。すると、他の子どもたちも集まってきて、みんなで夢中で遊びました。頭から水をかぶって、女の子は「楽しかった」

た。また来るね」と笑顔で帰りました。この日を境に、プールの監視員と子どもたちの水泳教室が始まりました。女の子は里恵ちゃんという名前の女の子でした。里恵ちゃんも夏休みの終わりのころには、バタ足でプールの横を泳げるようになりました。悪友と始めたスイミング教室は保護者にも喜ばれて、3年間、夏にプールの監視員をしました。最初は、茶髪で見るからに怖そうな大学生のお兄さんでしたが、プールの門を開けると小学生が歓声を上げて集まってくるようになりました。抱きついてくる子もいれば、今日食べた朝ごはんの話や飼っている犬の話をしてくる子もいて、みんな笑顔でプールを楽しみに来ていました。安いバイト料でしたが、私も友達も小学生の純粋な可愛さに本当に水泳教室をするのが楽しみになりました。私は、いつのまにか小学生から「ゴキ」と呼ばれるようになりました。どのこも「ゴキ、ゴキ」とまつわりついてきました。どうして「ゴキ」なのかというと「日に焼けて真っ黒だからゴキブリなんだよ!」と笑いながら教えてくれました。小学生でなかったら、ぶっ飛ばす処ですが私も笑って、「ゴキです。」と返しました。小学生との触れ合いが私の人生を変えました。私は、小学校の先生になろうと決心しました。こんなにかわいい子供たちと心から接して、お金がもらえる職業なんて最高だと思いました。小学生の先生になってたくさんいろいろなことを教えてあげたいと思いました。給料などいらないから採用してほしいと思いました。私は、再び大学に通い始めました。教員になるためにです。その時、ちょうど中学校が荒れていました。テレビで毎日のように「荒れる中学校・校内暴力」なんていう特集が組まれて放映されていました。中学校の校舎内をバイクで走るとか、先生が生徒に殴られるとか、中学生が暴走族に入って暴力団とつながるとか、連日そのようなニュースがながれていました。そのようなニュースの中に次のようなニュースが私の目に留まりました。

1983年2月15日の午後、東京都町田市立忠生中学校の玄関にて勃発。同校の三年生の生徒（当時15歳）2人が男性英語教師（当時38歳）に対して、玄関マットを振りかざして威嚇したところ、恐怖心を抱いた教師が所持していた果物ナイフで反撃。

生徒一人を刺し、全治数日のケガを負わせて逃亡。当日中に警察に逮捕された。教師は、「生徒たちがこわい。もう耐えられなかった」「助けを（学校や同僚教師に）求めたが、何もしてくれなかった」と語った。

このニュースを聞いて、私は小学校の先生の夢を捨てて、中学校の教員になろうと決意しました。教師が生徒を刃物で刺したこの事件は、私を奮い立たせました、いったい中学校はどんなってるのか、中学生と話したい。そして、中学校の先生に喝を入れたいと思ったのです。

つづく